

◆令和7年1月～6月事故の状況◆

【事故の特徴】

- ☆労働災害と公衆災害を合わせた事故全体の件数は、19発生しており過去5年平均と比べ8件減少しています。
- ☆労働災害は12件発生しており過去5年平均と比べ4件減少しています。建設機械等の事故が増えてきています。
- ☆休業4日以上労働災害は1件発生し、死亡事故はありませんでした。

- 各地でクマの目撃情報が相次いで報道されています。とくに山間部の工事現場はリスクが高いですが、人里でも安心できません。被害にあわないよう対策をご検討ください。

※北陸地方整備局発注の直轄工事を対象としています。
※使用している数値は速報値であるため、今後変更となる可能性があります。

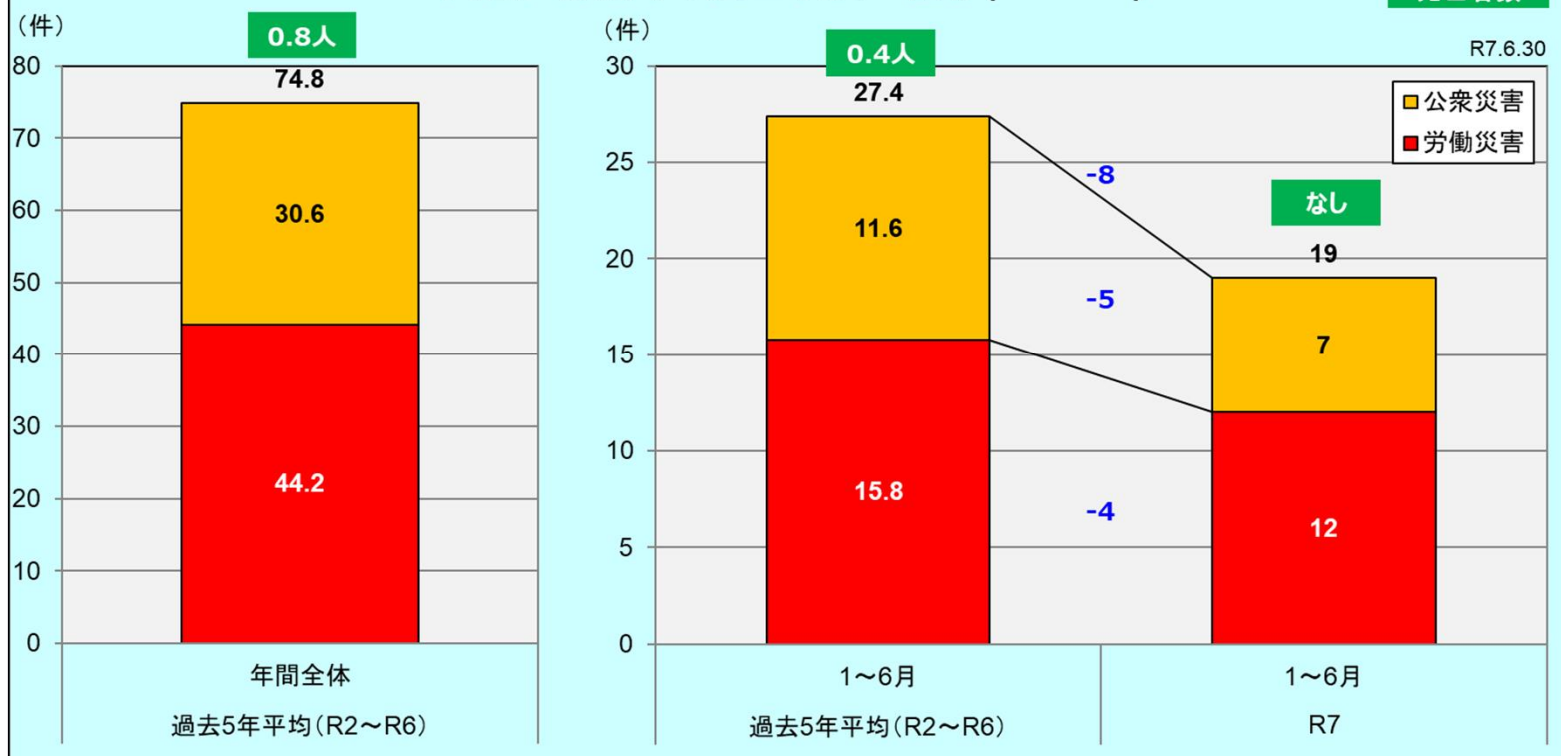
～工事事故の発生状況～

令和7年1月から6月までの事故件数19件で過去5年平均と比較すると8件少ない状況です。労働災害は12件、公衆災害は7件発生しており、過去5年平均と比較してともに減少しています。

災害区分別事故発生状況の推移(R2～R7)

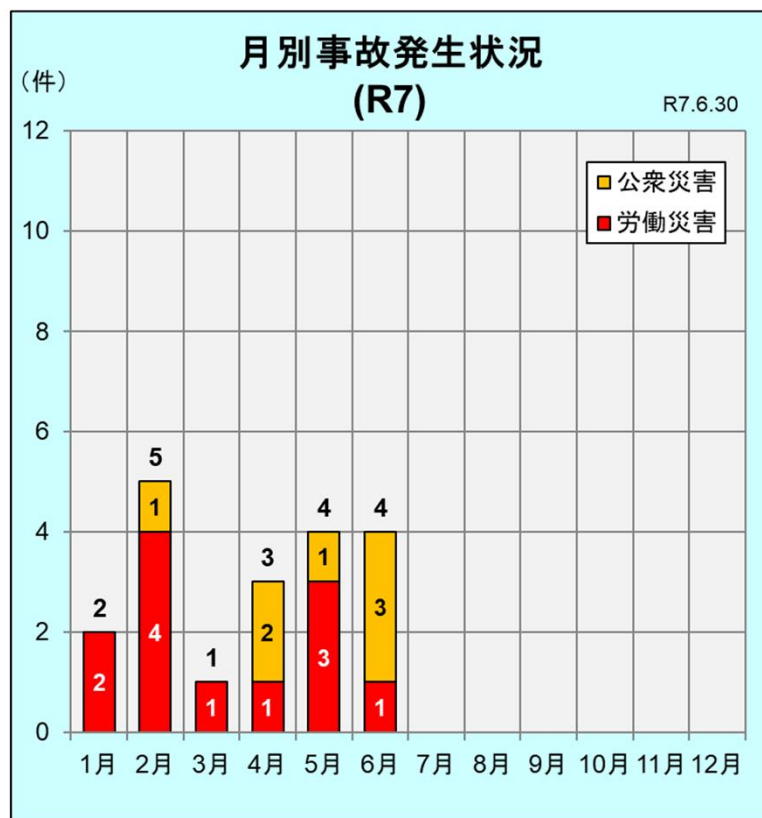
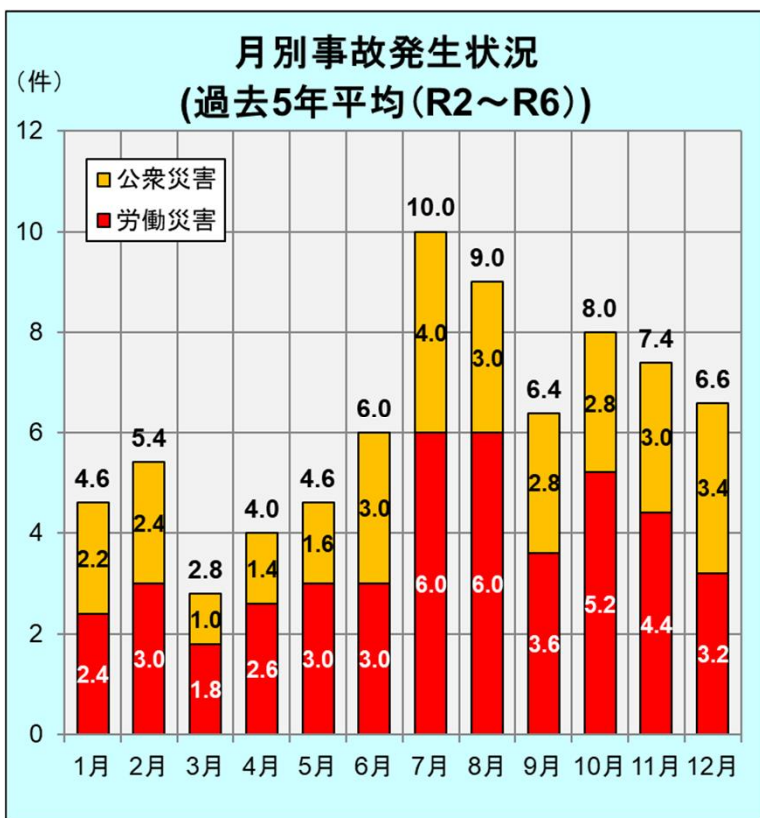
死亡者数

R7.6.30



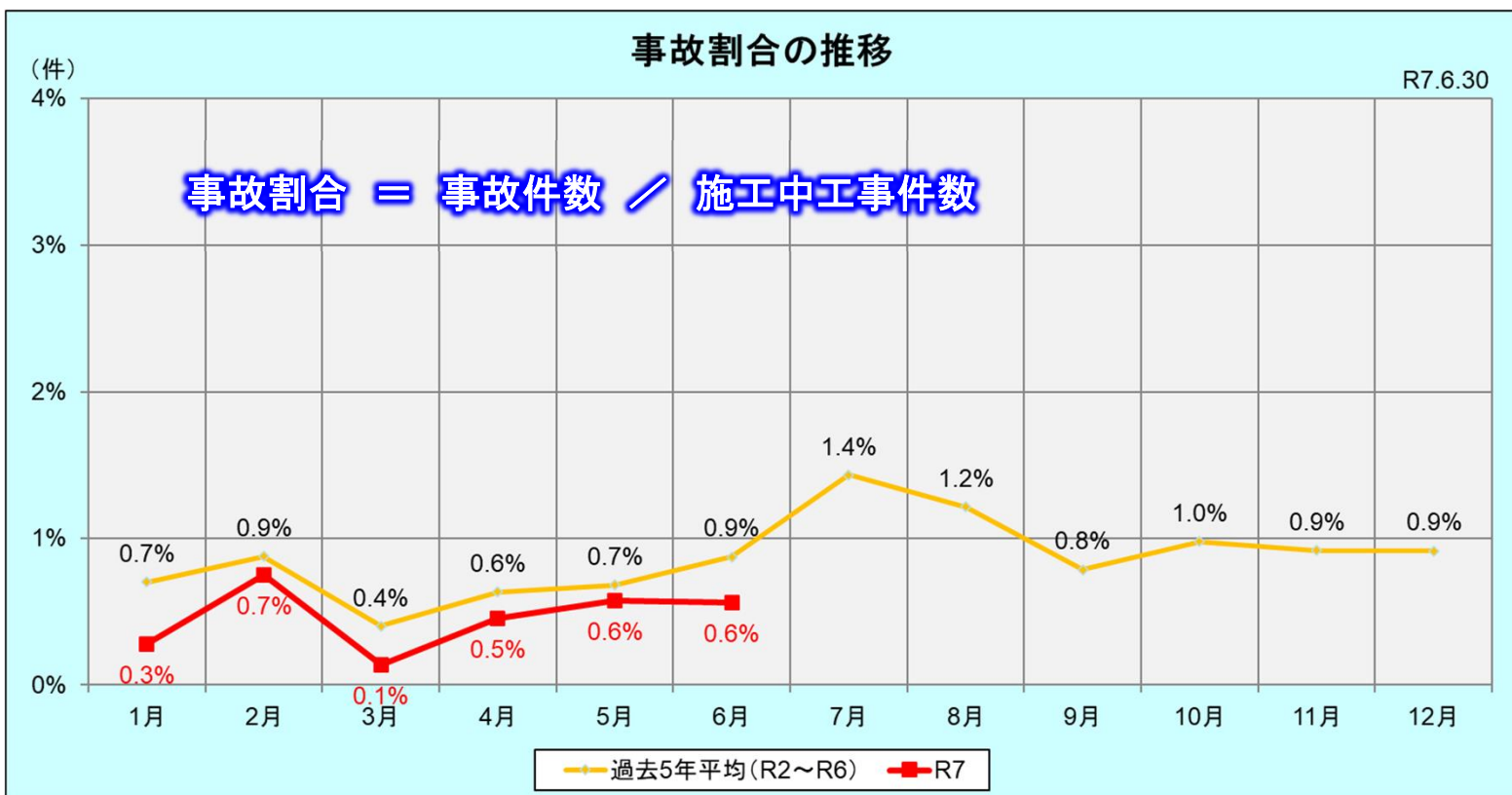
・月別の事故発生件数

過去5年平均と比較すると、全ての月で減少しています。



・事故割合

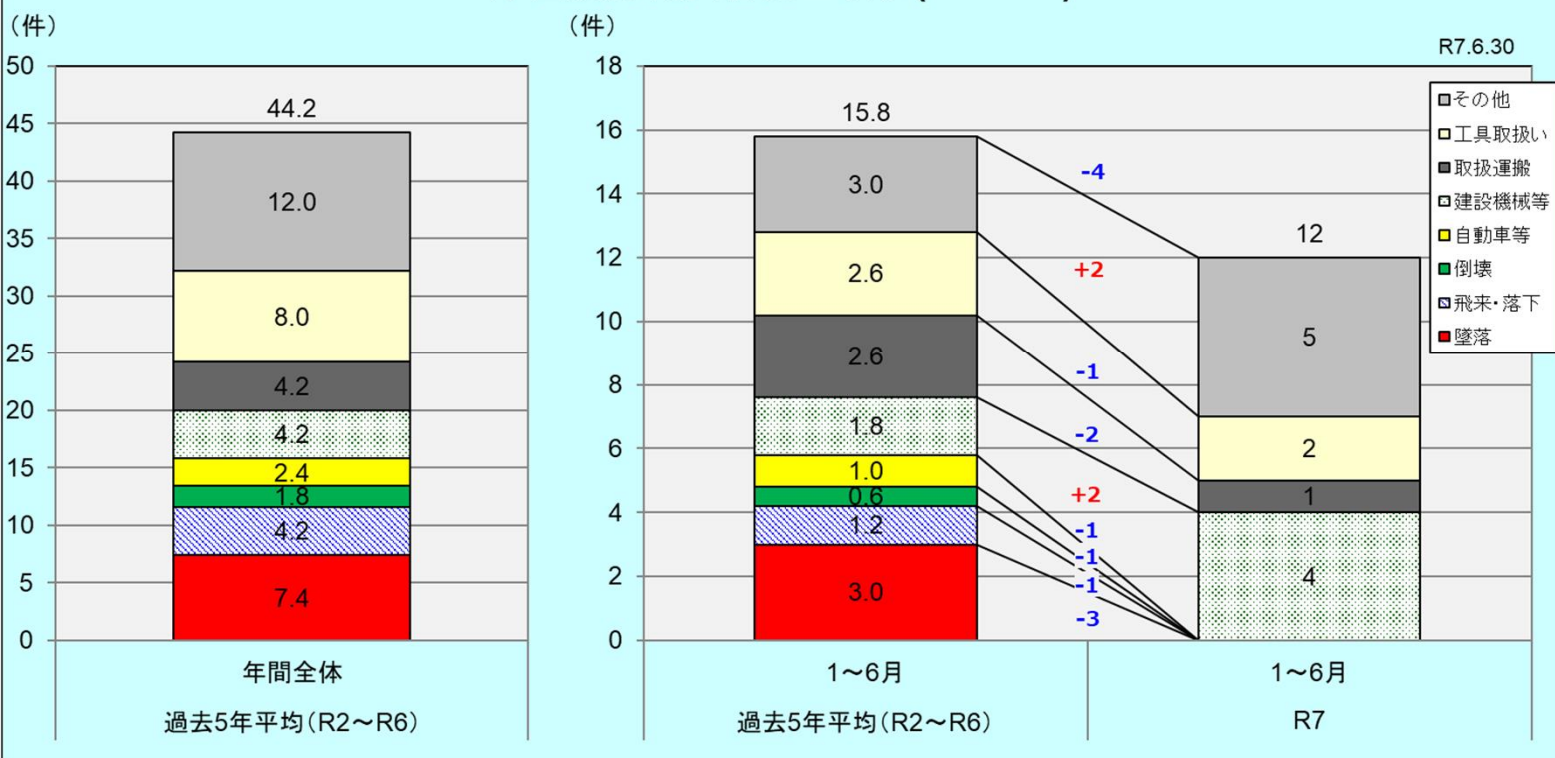
過去5年平均の事故割合の推移と比較すると全ての月で減少しています。



・労働災害の原因別事故発生件数

令和7年1月から6月までの労働災害のうち、原因別で多い事故は建設機械等、その他となっております。その他の事故は転倒や荷崩れとなっております。

原因別労働災害発生状況(R2～R7)

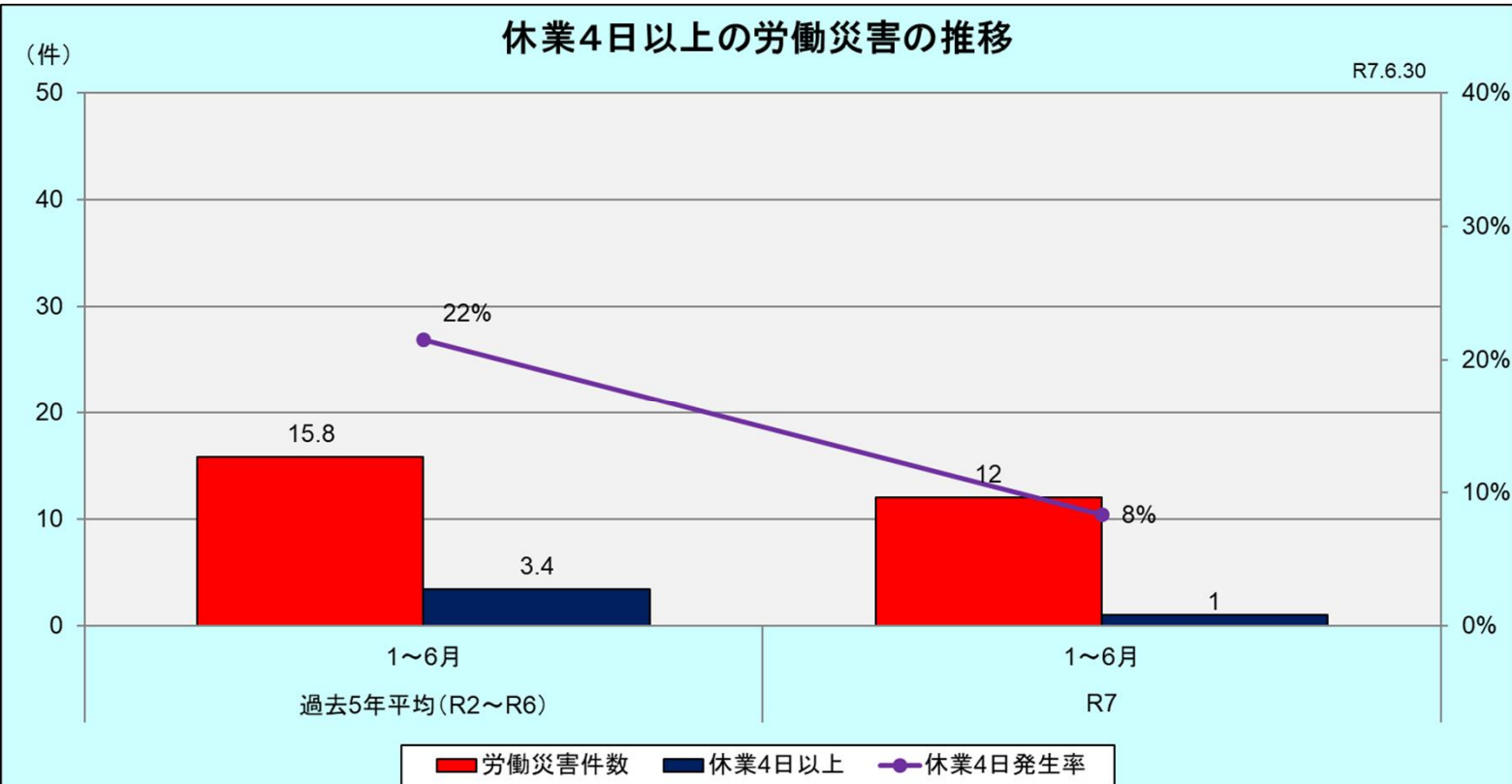


※その他：転倒、土砂崩落・電気・爆発・港湾・その他事故 等

・休業4日以上 の事故発生状況

今年1月から6月までの労働災害12件のうち、1件が休業4日以上 の事故となっています。過去5年平均と比べると重大事故の割合は22%から8%に減少しています。

休業4日以上 の労働災害の推移

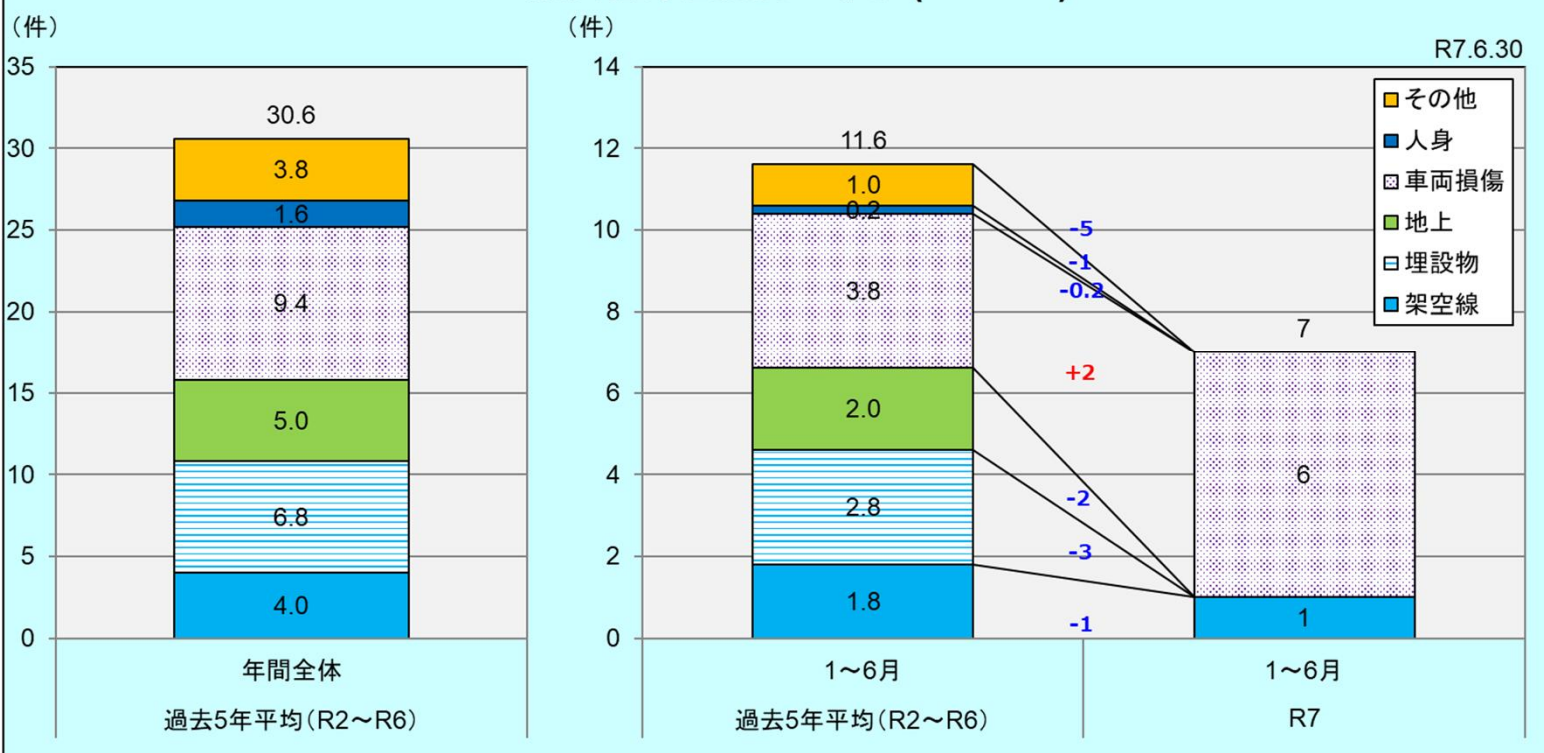


・公衆災害の原因別発生状況

令和7年1月から6月までの公衆災害は過去5年平均と比較すると減少しています。

過去5年平均と比べ、車両損傷(一般車両との接触)が増加していますが、それ以外は減少しています。

公衆災害原因別発生状況(R2～R7)



休業4日以上は建設工事事務データベース（SAS）に登録

- ・建設工事事務データベース（SAS）は、地方整備局・都道府県・政令指定都市・機構等が発注する公共工事で発生した一定規模以上の事故の事故報告データの集合体です。収集されたデータは、建設工事事務対策検討委員会や発注者において、工事事務防止に向けた対策の検討・立案に利用しています。
- ・休業4日以上の建設工事事務事故等を対象に、登録に必要な事故番号、パスワードを発注担当課長等に通知しますので、受注者・発注者は、インターネットを利用して登録（入力）してください。

✓ <https://sas.hrr.mlit.go.jp/>



- ・登録に関する詳細については、ホームページ内の「SASのガイドライン」を参照して下さい。

【問合せ先】 北陸地方整備局 企画部 技術検査官 白井

みんなで熱中症対策 知識を持ち行動しよう！

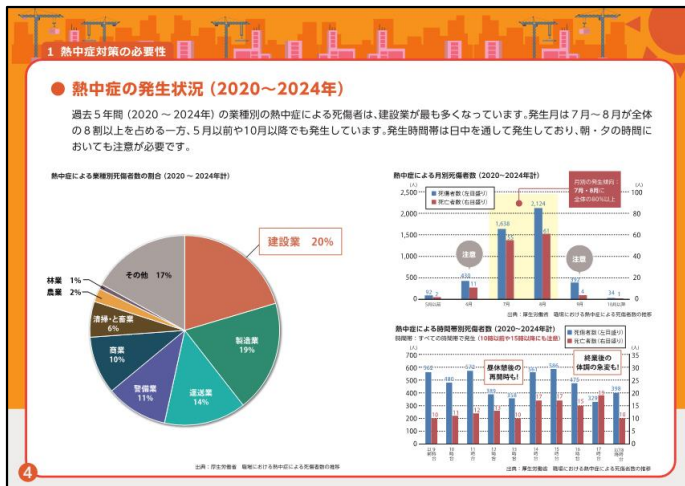


近年、猛暑日が増加するなど、熱中症のリスクが高まっています。

特に、屋外作業が多い建設業においては、熱中症が多数発生しており、なかには重篤化して死亡に至る事例も多く、令和6年の職場における熱中症による死亡者数31名に対して建設業は10名と全産業の中で最も多く発生しています。

建設現場をはじめとする職場における熱中症による労働災害は、近年の気候変動の影響から、夏期において気温の高い日が続く中、ここ数年は増加傾向にあり、依然として熱中症対策の徹底が求められているところです。

建設現場での熱中症の発生・重篤化を防ぐため、熱中症対策リーフレット(令和版)がとりまとめられましたので、ご活用いただくようお願いいたします。



<掲載URL>

○国土交通省 技術調査課 H P

https://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000052.html

